

平成26年度（2014年度）

自己点検・自己評価報告書

2015年3月

学校法人 新潟高度情報学園

新潟高度情報専門学校

新潟高度情報専門学校が掲げる、技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた、人間性豊かな技術者及び実務者を育成するという目的において、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること、および、学校評価の実施およびその結果の公表を適切に行なうことで学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと専修学校との連携協力による特色ある専修学校づくりを推進するべく、自己評価、学校関係者評価を行う。

以下、平成26年度の自己点検・自己評価結果を記す。

○平成26年度学校関係者評価委員

氏名	役職・所属
石澤 直樹	新潟高度情報専門学校長
亘 英一	新潟高度情報専門学校 教務課長
山田 賢一	新潟高度情報専門学校 教務課長
金子 貴之	新潟高度情報専門学校 教務課長

平成26年度 自己点検・自己評価

1. 学校の教育目標

学校教育法に基づき、技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身につけた、人間性豊かな技術者及び、人材を育成する。

設立時の役員の理念を大切にしており、その精神は現在も引き継がれている。

また、最新の技術の習得にも力を入れ、これからの地元新潟および日本の情報技術の発展に寄与できる人材育成を目的としている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・産学連携、地域連携の強化およびカリキュラムの充実を図る。
- ・ネットワーク環境の整備を図る。
- ・防災対策・計画を整備する。
- ・成績処理システムの改修または移行計画を進める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1
・学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	4 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に 周知されている	4 3 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 3 2 1

①課題

- ・今年度末、保護者アンケートを実施した。アンケート内容をもとに、学校運営について検証をすすめる。

②今後の改善方策

- ・今年度の保護者アンケートでの指摘・要望を真摯に受取り改善策を検討する。
- ・卒業生に関する企業向けのアンケートの実施を計画。

③特記事項

(1) 教育理念・目標

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	
理念・目的は学則に明記し、育成人材像は学生マニュアルでさらにわかりやすく表現してある。これらの内容を周知徹底し、教職員・学生とも共有することが目標とする教育を实践するうえで重要である。	4
・ 学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	
人間教育(道義礼節を兼ね備えた技術者の育成)、資格取得、担任制、精神的な自律と技術者として自立できる学生の育成を特色として掲げている。そして、情報の技術進歩に合わせ、トレンド・技術をカリキュラムに反映させるために産学連携を推進し、企業連携の充実を図るため各分野の業界団体に参加し情報収集にあたっている。	4
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	
産学関係事業を通して社会ニーズの把握と新潟高度の名前にふさわしい優秀な人材の輩出を目指し、社会に貢献する学校をめざしている。教員は、先進的な技術を自ら講座等に参加し、カリキュラムに落とし込むことが必要である。 業界的に、5年、10年先よりも、学生が卒業する2～4年後を想定し、社会に必要とされる知識や、開発ツールに頼らず基本となるプログラミング技術の習得を重要とする指導方針を重視し、実際に役に立つ事柄を教え伝えていきたい。	4
・ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	
学生マニュアルに記載している。また、ホームページやパンフレット等へ掲載し、広く周知している。他、保護者会で配布する資料等の充実を図りたい。	3
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	
必要とされる人材像を業界毎に検討し見直しを行っている。業界動向を把握するための、関連企業との連携強化により、連携授業を開始した。授業内容への落とし込み、社会ニーズに直結する科目内容となるよう改訂を進めたい。	4

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 また、有効に機能しているか。	4 3 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか。	4 3 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4 3 2 1
・地域社会等に対して学生が交流でき体制が整備されているか。	4 3 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4 3 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4 3 2 1

①課題

- ・現校内システムの改修・移行またはパッケージ導入等の比較検討をおこない、効率化と安全性の向上を図る。

②今後の改善方策

- ・現校内システムの運営における、セキュリティポリシーの再検討から進める。
- ・就職情報システムの改修を検討する。

③特記事項

(2) 学校運営

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	
<p>全体会を通じて年度当初に研修を実施。学生マニュアル・教員マニュアルを整備し、運営方針を定めている。</p> <p>職業実践専門課程・企業連携を効果的に実施するため、運営について検討する。</p>	4
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	
<p>事業計画に基づき実施されている。人材育成並びに資格取得・就職内定について目標達成をめざし教職員が努力している。</p> <p>学生確保が厳しくなることが予測され、学校として高校生や将来を考える小中学生に情報技術の必要性を広く知ってもらい、情報処理に興味を持ってもらうことができる機会を提供すること等、様々な取り組みをおこなっている。</p>	4
・ 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	
<p>組織、意思決定には問題はない。グループウェアを有効活用し決済の迅速化を図っている。事務職員の担当業務の増加により事務分掌の見直しを進めている。</p>	4
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	
<p>整備されている。人事考課については学校経営全体の収支に応じて判断している。</p>	4
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	
<p>グループウェアが導入されており、各役職での決済、承認権限を与えている。他、出欠席委員会、進級会議、理事会等それぞれの意思決定の為の仕組みがあり、会議の実施により意思決定している。</p>	4
・ 地域社会等に対して学生が交流できる体制が準備されているか	
<p>対外活動(エール活動やCANIプロジェクト)等の地域に根差した活動している。産学関係の強化にともない、学習として学生らが学外に出ることが多くなってきている。</p>	4

<p>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</p>	
<p>学校行事や産学関係や対外活動(エール活動やCANIプロジェクト)、小学校・高校での出前授業など活動範囲も広がってきている。ホームページやSNSを通じた活動を紹介している。</p>	4
<p>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</p>	
<p>学内システムによる業務の効率化は図られている。従来から自前の成績管理システム、出欠管理システム、予算管理システム等を運用し、グループウェアを導入し、必要により改修やパッケージの導入を検討する。</p> <p>現校内システムの利用において、セキュリティポリシーの見直しを行い、ポリシーに沿った運営を確認する。学生用グループウェアの各機能を活用し、グループウェアの活性化を図る。また、就職情報の効果的な利用を図るため、システムの再構築を進める。</p>	3

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	工学	情報	ゲーム	ビジネス
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4	4	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4	4	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	4	4	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4	4	3
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	4	4	3
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	4	3	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	4	4	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4	4	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4	4	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4	4	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	4	4	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	4	3	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	3	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	4	4	4

①課題

[情報工学科]

- ・職業教育に関する教科目・研究機材等の充実を図る。

[高度情報システム/情報システム科]

- ・学生のヒューマンスキル向上の為の方策を図る。
- ・教員の専門分野に対してのスキルアップが必要である。

[ゲーム開発研究/専門/技術科]

- ・業界団体や関係企業の連携強化必要。
- ・教員の技術研究のための時間の確保が困難な状況がある。

[情報ビジネス科]

- ・在学生の到達レベルは入学生の学力により変化しやすい。
- ・就職や資格取得に対する意識が低い学生に対する指導が重要である。

②今後の改善方策

[情報工学科]

- ・C3Laboや機器教材の充実、グループワークやプレゼンテーションを行う機会を増やす。
- ・外部コンテストやインターンシップへの参加を増やし外部との接触を検討する。

[高度情報システム／情報システム科]

- ・授業内でグループワークやプレゼンテーションを行う機会を作り、ヒューマンスキルの向上を行う。
- ・スキルアップの為積極的に外部研修に参加するとともに、並行して内部研修を行う。

[ゲーム開発研究／専門／技術科]

- ・関連企業やOBなど外部との関係性強化に努める。
- ・研修やセミナーの情報収集に努め、積極的に参加すると同時に社内研修にも取り組む。

[情報ビジネス科]

- ・実務を意識した授業が実施できる様、主要科目については現場経験豊富な非常勤講師に依頼し、実務おける知識・経験および検定取得を意識した学生指導を行う。

③特記事項

- ・情報ビジネス科の募集は、25年度で終了。
- ・各学科の詳細は最後に添付した。
- ・情報工学科は帝京大学のカリキュラム変更により、履修科目等の影響を受けやすい。
- ・次年度、教務課長から就職担当の任を解き、学生数に合わせ就職指導の強化、就職先企業との関係を強化する。
- ・情報系学科では、サイバー大学と提携し、特別聴講生として、1部コンテンツを授業に取り入れ、今後の授業展開について検討を進めた。

平成26年度 自己点検・自己評価 学 科 情報工学科(帝京大学併修)

(3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
<p>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</p>	
<p>教育理念をふまえ、資格取得、自分で調べる力、目標に向かって計画・実行できる能力、コミュニケーション力の向上など総合的な人間力の向上を目指し、技術と実践を兼ね備えた新潟高度の教育と、連携先の帝京大学として知識、研究の教育があり、双方を満たす教育課程の編成を策定、実施している。</p>	4
<p>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</p>	
<p>社会のニーズに合わせ、学士取得・技術者養成を連動させ、社会の求める人材育成の為のカリキュラム検討を重ねている。</p> <p>又、学生に対して学校及び情報工学科の教育方針を学生マニュアルに明示し、入学時にカリキュラム、コマシラバスと共に説明することで、教育到達レベル及び学習時間を明確にしている。</p> <p>職業教育に関し授業に反映することや次年度に向け新科目の設置を進める。</p>	4
<p>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</p>	
<p>技術習得・資格取得に合わせたカリキュラムであり、かつ学士を取得する為に編成された内容となっている。</p> <p>又、コンピュータの技術習得や資格試験に対し十分に時間を割き、無理なく大学の単位を取得できる体系的カリキュラムになっている。</p> <p>帝京大学でのカリキュラム変更にとまない、影響を受けることがある。</p>	4
<p>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p>	
<p>社会性、コミュニケーション力向上の為の科目配置だけでなく、産学連携に基づく実践教育も取り入れ、科目としてのキャリア教育の他、個々のケースに応じたキャリアサポート強化を図っていく、きめ細かなサポート体制を整えている。また、多様な技術動向や学生の研究目的に対応できる機器・機材・書籍等の購入計画、授業へ取り込み等強化する。</p>	4

<p>・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>	
<p>帝京大学のカリキュラム修正が行われており、合わせ見直しの必要性が生じている。 関連分野の複数企業、及び業界団体の方に参画頂き、教育課程編成委員会を実施し、カリキュラムや実施方のご意見を頂き、その結果と技術動向を踏まえ柔軟に次年度カリキュラムの作成、及び見直しを行っている。</p>	4
<p>・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実習等）が体系的に位置づけられているか</p>	
<p>関連分野企業の方に非常勤講師として授業の実施、評価を頂いているが、インターンシップに関しては、受入れ企業を探し連携を進める。新たな倫理憲章にともない、インターンシップを実施する企業が増えている。長期休暇期間中のインターンシップや授業との連携を含め検討したい。</p>	4
<p>・ 授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	
<p>半期毎に学生への授業理解度アンケートを実施し、評価結果を講師にフィードバックすることで、学生の理解度及び改善点を把握し、学生の満足向上に努めている。 又、アンケート結果に問題があれば担当にヒアリングを行い、教務課長・学科主任を中心に適宜見直しを実施し、次回の担当授業に生かしている。</p>	4
<p>・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	
<p>教育課程編成委員会等で外部関係者の方々から、職業教育に関する評価・アドバイスは頂いた。 今後は定期的な授業評価としてカリキュラムや学生指導のほか、ボランティア活動など校外活動等さまざまなシチュエーションでも協力関係を築き学生がいろいろな立場の方達から有益なアドバイスをいただけるように活動の幅を検討する。</p>	4
<p>・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	
<p>評価や認定の基準は共通となっており明確である。 期末試験に重きを置き、平素の授業態度、確認テスト、授業出席率、課題提出状況による総合点により評価を行い、進級及び卒業を認定する。</p>	4

<p>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	
<p>情報系の主要目標検定である情報処理国家試験においては、ITパスポート ⇒ 午前免除試験 ⇒ 基本情報 ⇒ 応用情報 ⇒ 高度試験と段階的に取得するカリキュラム構成となっている。</p> <p>又、合格率向上の為、試験の数週間前より対策授業を行い、合格をサポートしている。</p>	4
<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>客観的な評価尺度としては情報系教員全員が情報系国家資格を取得している。カリキュラムに対応し学生指導を行っているが、大学科目での指導・サポートの充実を図る為、今後も教員のスキルアップが必要不可欠である。</p>	4
<p>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>教育課程編成委員会、及び学校関係者評価委員会などで関連分野における業界関係者とコネクションを持ち、カリキュラム作成を始め、授業協力等の関係を築いている。</p>	4
<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</p>	
<p>外部研修へ参加、セミナーや展示会などにも参加し、知識・技能等の向上を図っている。科目履修し単位認定できるe-Learning等が無料で公開され、教員の研修でも利用している。</p> <p>教員の教授力については授業アンケートを活用し内部評価・指導をおこなっており、新入社員・中堅社員について外部研修に参加させ教授力の向上を図る。継続して、新しい技術の吸収が必要であり、特に専門分野のスキルアップの為に外部研修に参加させたい</p>	4
<p>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</p>	
<p>特に学科としての職員は配置されていないが、学校として外部での研修に参加、業務知識習得のため研修に参加している。</p>	4

平成26年度 自己点検・自己評価 学 科 高度情報システム/情報システム科

(3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
<p>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</p> <p>「学校教育法に基づき、技術者の養成に合わせ、教養・人格の高い道義・礼節・作法をも身につけた、人間性豊かな技術者及び人材を育成する。」という教育理念に基づき、知識・技術だけでなく、人間として評価される人材となる様、教育課程の編成を行っている。</p> <p>その上で、資格取得、自分で調べる能力、目標に向かって計画・実行できる能力、コミュニケーション能力の向上、先生を超える学生の輩出できる様、学校・教職員は学生等を親身に指導・サポートするよう実施する方針である。</p>	4
<p>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</p> <p>IT業界の技術動向や世の中のニーズに合わせた資格取得、技術者の養成に努め、毎年、社会の求める人材育成のためのカリキュラム検討を重ねている。</p> <p>各科目のコマシラバス及び履修計画を作成し、その中で教育到達レベル及び学習時間を明記し、学生に提示している。</p> <p>確認テスト、実習課題等を小まめに実施しクリアさせることで、一定の教育到達レベルを担保し、又、2年課程、3年課程共修業年限に応じた教育成果として卒業年次後期に卒業研究科目を設け、集大成としている。</p>	4
<p>学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>技術動向や社会ニーズをカリキュラムに取り入れる為に毎年見直しを図り、資格取得とキャリア教育を柱としたカリキュラムを構築し、教育方針に従い目指すべき人材像に添うように、各学科において入学から卒業までのスパンで体系的に編成している。</p> <p>教育課程編成委員会で聴収した業界団体などの意見も取り入れており、実践的なカリキュラムになっている。</p>	4

<p>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p>	
<p>専門学校の役割である就職予備校として、入学時より就職に対しての意識付を行い、就職前年度通年科目として「キャリアデザイン」を実施し、各分野の外部企業の方々から講演をして頂くなど、授業内外において就職支援を行う環境がある。</p> <p>又、上記科目以外の授業内でも「キャリア教育」的な要素を取り組む工夫として日常的な学校生活においても学生、教員間の礼儀作法をはじめとし報告、連絡、相談など社会人として必要な要素を身に付けるよう指導している。</p>	4
<p>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>	
<p>関連分野の複数企業、及び業界団体の方に参画頂き、年2回「教育課程編成委員会」を実施し、カリキュラムや実施方のご意見を頂き、その結果と技術動向を踏まえ、柔軟に次年度カリキュラムの見直し、及び改善を行っている。</p>	4
<p>・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか</p>	
<p>関連分野企業の方に非常勤講師として授業を行い、評価を頂いている。</p> <p>又、新たに授業内で企業インターンシップを行う科目を取り入れ、実際に企業の中で現場の技術者の方から直接ご指導を受ける体制を取っている。</p> <p>今後も積極的に企業連携を進めていき、より実践的な教育を目指す。</p>	4
<p>・授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	
<p>半期毎に学生への授業理解度アンケートを実施し、評価結果を講師にフィードバックすることで、学生の理解度及び改善点を把握し、学生の満足向上に努めている。</p> <p>又、アンケート結果に問題があれば担当にヒアリングを行い、学科長を中心に適宜見直しを実施し、次回の担当授業に生かしている。</p>	4
<p>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	
<p>卒業研究科目において、関連企業の方に入って頂き、定期的に学生の制作物に対してのレビューを行い、専門的なアドバイスを頂いた。</p> <p>厳しい意見もあったが、学生にとっては良い刺激となり、制作物のクオリティが上がった。</p> <p>今後はさらに企業連携を深め、より実践的な職業教育を実施したい。</p>	4

<p>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	
<p>卒業研究科目において、関連企業の方に入って頂き、定期的に学生の制作物に対してのレビューを行い、専門的なアドバイスを頂いた。</p> <p>厳しい意見もあったが、学生にとっては良い刺激となり、制作物のクオリティが上がった。</p> <p>今後はさらに企業連携を深め、より実践的な職業教育を実施したい。</p>	4
<p>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	
<p>情報系の主要目標検定である情報処理国家試験においては、ITパスポート ⇒ 午前免除試験 ⇒ 基本情報 ⇒ 応用情報 ⇒ 高度試験と段階的に取得するカリキュラム構成となっている。</p> <p>又、合格率向上の為、試験の約1か月前より対策授業を行い、合格をサポートしている。</p>	4
<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>客観的な評価尺度としては情報系教員全員が情報系国家資格を取得している。</p> <p>更に新しい技術をカリキュラムに取り入れていく為、継続的な教員のスキルアップが必要不可欠である。</p>	4
<p>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>教育課程編成委員会、及び学校関係者評価委員会などで関連分野における業界関係者とコネクションを持ち、カリキュラム作成を始め、授業協力等の関係を築いている。</p>	3
<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</p>	
<p>情報分野における先進的な知識や技能等の修得に関しては、積極的に外部研修やセミナーや展示会などに参加し、教員の知識・技能等の向上を図っている。</p> <p>指導力育成については学生に対しての授業アンケートを実施し、客観的な内部評価・指導を行っており、新入社員・中堅社員については外部研修に参加させ指導力の向上を図る。</p>	4

・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	
特に学科としての職員は配置されていないが、学校として外部での研修に参加、業務知識習得のため研修に参加している。	4

平成26年度 自己点検・自己評価

学 科 ゲーム開発研究/専門/技術科

(3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	
チームでのゲーム開発を通じて自分の役割や求められる人材像を理解し、自身の成長につなげられるように教育課程を編成している。	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
年々、新たな技術が生まれ業界のニーズも多様化し、求められるレベルが高くなるなかで可能な限りカリキュラム等に反映させて教育到達レベルの引き上げを行っている。学習時間については、更なる技術力向上のため授業時間だけでなく寸暇を惜しんで制作に取り組む熱意が求められる。	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
プログラマ、CGのコース毎にゲーム業界への就職を前提としたカリキュラムが編成されている。未経験者が入学後に基礎的な内容からステップアップし、高度な技術を習得できるように段階的な科目編成となっている。プログラミングやCG制作の根幹となる科目を中心に、技術の進歩やトレンドに合わせて変更を行っている。	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
ゲーム開発企業を講師に迎えた授業や業界セミナーなど、現場で働くプロから指導を受ける機会を設けている。ゲーム開発は複数名で行われるため、在学中からチームでの制作を行っており、卒業までに3～5作品を制作する中でチーム開発に重要なスキルを身に付けさせている。また、東京ゲームショウへの出展や各種コンテストへの応募を通じて、課題ではなくユーザに向けた作品として開発させている。 日々の教員と学生のコミュニケーションが充実しており、授業外の学校生活でもフォローしている。	4

・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	
教育課程編成委員のメンバーや関連企業よりアドバイスを受けてカリキュラムの作成・見直しを行っている。企業により求められる技術や考え方が異なるため一方的に意見を受け入れるのではなく、当校のゲーム系学科の方向性を明確にしたうえで連携を取る必要がある。	4
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実習等）が体系的に位置づけられているか	
ゲーム開発関連企業によるセミナーや新潟市内のゲーム開発会社による授業などを実施している。関連企業は県外に集中しているため、企業開拓を進めるとともに、インターネット等を活用しての職業教育実施を模索する。	3
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	
各学期末に授業アンケートを実施している。評価内容に目立った点があれば学科長より聞き取り調査が行われ是正を促している。	4
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	
教育課程編成委員のメンバーや業界で働くOBを中心にアドバイスを受けている。特にOBからは学習内容が現場でどのように活かされているか、現場を経験して在学期間中に学んでおきたかった事などを聞き取り、カリキュラム等に反映している。	4
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	
評価や認定の基本は全学科で共通となっている。単位認定基準は明確だが、CGのクオリティやゲームの面白さなどの評価は客観的な評価に努める必要がある。	4
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	
他の学科に比べ受験する資格が少なく、資格取得を軸としたカリキュラムではないが、受験する資格は全員合格を目指して指導を行い、必要に応じて対策授業を行っている。	4

<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>ゲーム開発に用いる技術の進歩やニーズが変化する中で、業界研究や技術研究を行い、学生一人ひとりと向き合うことで毎年卒業生をゲーム業界へ輩出している。今年度は業界経験者を1名採用したことで、様々な技術要素に取り組むことができ、より実践的な学生指導を行うことができた。</p> <p>業務との兼ね合いで研究時間が思うように取れない時期もあるため、一年を通して安定した研究時間が確保できるように進めたい。</p>	4
<p>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>ゲーム開発経験者は根本的に数が少なく、兼務であっても確保が難しい現状にある。現時点では新潟市内のゲーム開発企業より非常勤講師として授業を行ってもらっているが、ビデオ会議システム等を利用し、遠隔授業の導入を検討したい。</p>	3
<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</p>	
<p>毎年、東京ゲームショウやゲーム系のカンファレンス「CEDEC」へ参加するなど、先端的な知識を習得しているが、技能関係は外部研修の機会が少なく、各自の研鑽が中心となっている。企業との連携を進めて技術研修を活性化させたい。</p>	3
<p>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</p>	
<p>特に学科としての職員は配置されていないが、学校として外部での研修に参加、業務知識修得のため研修に参加している。</p>	4

平成26年度 自己点検・自己評価

学 科 情報ビジネス科

(3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	
本校の教育方針に掲げる人材の育成ならびに情報ビジネス科教育方針をもとにした教育課程により実践型の授業を展開することで、地元から必要とされるビジネスマンの育成を図っている。	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
<p>学科設置の目的と世の中のニーズに合わせ、資格・検定取得、仕事を適切にこなす技術とを連動させ、社会の求める人材育成のためのカリキュラム検討を重ね、シラバス・履修計画等を作成し明確にしている。</p> <p>ただし、授業で習った知識や技術の定着には放課後を主とした授業時間外の利用が望ましいと考える。学生自らが高いモチベーションを維持して、授業時間外も積極的に学習できるための環境づくりやクラス運営等が重要である。</p>	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
他の学科に比べて学生の希望職種にバラつきがあるため、情報ビジネス科として根幹となるカリキュラムをベースに微調整を行っている。情報系専門学校におけるビジネス学科として、IT活用を意識したカリキュラムとなっている。	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
<p>外部コンテストや学外活動、公共機関での講座開催など、在学期間を通して対外活動を行うようにカリキュラムを構築している。</p> <p>インターンシップの実績が少ないので、就業意識の向上と共に提携先の拡大が必要となる</p>	3

・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	
他の学科に比べて関連分野が多岐にわたるため連携は十分とは言えないが、企業や業界団体からのアドバイスによりカリキュラム検討を行っている。	3
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実習等）が体系的に位置づけられているか	
主要科目については学科の主軸として企業との連携による授業や、対外的な実践的授業の実施により体系付けられている。全学生の希望職種に対応するまでには至っていない。	3
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	
半期毎に学生からの授業評価を含め実施している。シラバスと授業実績の検証、学生評価のフィードバックを行う。学生の理解状況等を判断し、適切であったかの検証を行い、関係教員と授業改善を図っている。	4
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	
企業・関係団体・OBをはじめとする外部関係者からの評価は学内で情報共有して、教育課程編成やカリキュラム修正に活用している。	4
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	
評価や認定の基本は学校共通となっており明確である。企画系の授業においては正解が存在しない為、評価者の判断基準が曖昧にならないようにしなければならない。また、授業時間外の利用やグループワークにより、個人の成果を把握しづらい面があり、成績評価の際は注意が必要と考える。	4
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	
ビジネス系の就職活動においては取得検定が評価される傾向が強いため、多くの科目で検定受験をカリキュラムに組み込んでいる。受験する資格は全員合格を目指すため必要に応じて対策授業を実施する。	4

<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>常勤教員が担当できないビジネス系科目では、商工会議所など各所からの紹介などにより要件を備えた人物を非常勤講師として確保している。</p>	4
<p>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>本部、総務を通じて商工会議所や関係各所と連携して教員の採用活動を行っている。</p>	4
<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</p>	
<p>教員の教授力については授業アンケートを活用し内部評価・指導を行っており、新入社員・中堅社員については外部研修に参加させ教授力の向上を図っている。</p> <p>外部研修、セミナーや展示会などにも参加し、知識・技能等の向上を図っているが、新しい技術の修得は自己研鑽となることが多い。</p>	3
<p>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</p>	
<p>特に学科としての職員は配置されていないが、学校として外部での研修に参加、業務知識習得のため研修に参加している。</p>	4

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	工学	情報	ゲーム	ビジネス
・就職率の向上が図られているか	4	4	4	3
・資格取得率の向上が図られているか	4	3	3	3
・退学率の低減が図られているか	4	3	4	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	4	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	3	4	4

①課題

[情報工学科]

- ・卒業生の職務先での活動状況の把握を進める。
- ・会社でより活躍できるための就業の為の意識付けを早期からはじめる。

[高度情報システム／情報システム科]

- ・就職に対して早い段階から職業意識をもたせられていない。
- ・卒業生の職務先での成果について把握できていない。

[ゲーム開発研究／専門／技術科]

- ・自主的かつ積極的な卒業年次生の就職活動の早期化を促す。

[情報ビジネス科]

- ・他者とのコミュニケーションが不得手な学生への対応
- ・検定合格率が目標に届かない資格・検定試験があった。

②今後の改善方策

[情報工学科]

・卒業生に業界講話やキャリア形成の経験を学生に直接話をしてもらうことで情報収集にとどまらず、学生へのアドバイス、社会人としての矜持等、様々学生に伝える等の機会を検討。言葉だけの夢や未来ではなく、実現可能な現実やその先の目標等、試すことができる環境を用意する。C3Laboや組込み開発が実施できる教室の設置と充実、有効活用を図ることで、学生の研究に対する向上心、将来携わる仕事への興味・関心につなげる。

[高度情報システム／情報システム科]

- ・HRや授業を通じ意識付けを徹底するとともに、実習系授業課題を整備する。
- ・1年次よりキャリア教育や外部の方からの講演など行い職業意識を高める。
- ・卒業生に協力依頼し、授業科目・内容の有用性の確認・科目の修正を検討する。

[ゲーム開発研究／専門／技術科]

- ・ 1年次より就職指導や業界研究を行うことで意識の向上につなげる。
- ・ 作品開発の規模を縮小する代わりに完成度を上げて、早期応募ができるように指導する。

[情報ビジネス科]

- ・ 担任、講師が積極的なコミュニケーションを継続する。
- ・ 学生とともにコミュニケーションが不得手な人に対する共通認識を図る
- ・ 取りこぼした検定は、対応する授業を用意し卒業までに合格させたい。

③特記事項

- ・ 情報ビジネス科の募集は、25年度で終了。
- ・ 各学科の詳細は最後に添付。
- ・ 今後増えると予想される、精神疾患を持った入学生への対応が重要である。

平成26年度 自己点検・自己評価

学 科 情報工学科(帝京大学併修)

(4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・就職率の向上が図られているか	
<p>学生数が少ないこともあり学生個々に対応できている。内定時期が遅い学生がいるため、早期の全員内定を目指す。今年度は希望企業・職種に全員内定できたが、目標とする早期内定とはいかなかったが引き続き目指したい。</p>	4
・資格取得率の向上が図られているか	
<p>学生数が少ないため、合格者の数で資格取得率が大きく影響する。検定前対策を実施することで、取得率の向上を図っている。</p> <p>国家試験の合格は3,4年生では全員基本情報技術者試験合格、1,2年生では3年生に上がるまでに全員合格をめざしたい。</p>	4
・退学率の低減が図られているか	
<p>ドロップアウトが発生しないよう、ガイダンスを通じ学生の把握と指導には注意し、担任だけでなく学科・学校として共通理解し学生を注視することで退学への歯止めとしている。</p>	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
<p>在校生の活躍の状況については学校ホームページや同窓会会報、校舎外壁での掲示等を通じ対外発信している。</p> <p>卒業生の活躍については企業側の許可等が必要な場合が多く対外的にアピールできない部分や、卒業生と学校とのネットワークが密でないため、卒業生との交流機会を増やしその動向を把握する必要がある。</p> <p>今年度以前の卒業生に対して状況確認をはじめた。今後も連絡を取り合える仕組みを検討したい。</p>	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
<p>卒業生を含む企業との連携を強化し、優れた教育活動となるよう情報収集しカリキュラムへ反映したい。卒業生勤務先企業へのアンケート等の実施を検討している。</p>	3

平成26年度 自己点検・自己評価 学 科 高度情報システム/情報システム科

(4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 就職率の向上が図られているか	
学生数が少ないこともあり担任、及び就職担当の2名体制で学生個々に対応できている。内定時期が遅い学生がいるため、早期の全員内定を目指す。	4
・ 資格取得率の向上が図られているか	
学生数が少ないため、合格者の数で資格取得率が大きく影響する。 主要検定前には対策を実施することで、取得率の向上を図っている。 今後は教員の個の力ではなく、組織として連携し更なる結果に繋げていきたい。	3
・ 退学率の低減が図られているか	
ドロップアウトが発生ないように適宜ガイダンスを通じ、個々の学生の状況把握と指導を行っている。 又、必要であれば保護者と連絡をとり、学生状況を伝え、家庭面でのサポートも依頼しながら、学校と家庭の両面から学生をサポートしていく。	3
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
在校生の活躍の状況については学校ホームページや同窓会会報、校舎外壁での掲示等を通じ対外的に発信している。 卒業生の活躍については企業間の許可等が必要な場合が多く、情報公開できない部分や、卒業後の卒業生と学校とのネットワークが密でないため、卒業生との交流機会を増やしその動向を把握する必要がある。	3
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
職業実践専門課程を機に、卒業生を含む企業との連携を強化し、優れた教育活動となるよう情報収集しカリキュラムへ反映したい。	3

平成26年度 自己点検・自己評価

学 科 ゲーム開発研究/専門/技術科

(4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 就職率の向上が図られているか	
履歴書や面接の指導は個人レベルで行っており、学生一人ひとりに合わせて細かな指導を行った結果、高い就職率を実現した。	4
・ 資格取得率の向上が図られているか	
資格取得を軸としたカリキュラムではないが、受験資格は全員合格を目指す難易度の資格が多いため、必要に応じて対策授業を行った。 今年度より学習機会を増やす目的でe-learningを導入したが、十分な活用ができず、効果を得るには改善の余地がある。	3
・ 退学率の低減が図られているか	
担任や関係教員は放課後などに教室へ滞在する時間を設けて、クラスの雰囲気づくりをすることで学生間のコミュニケーションは良好となり、人間関係が原因での退学率低下につながっている。	4
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
在学中から学生と教員のコミュニケーションが図られており、卒業してからもSNS等を通じて情報交換が行われている。在校生についてはコンテストへの応募に伴う受賞結果が主な活躍の場となる。	4
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
在学中から学生と教員のコミュニケーションが図られており、卒業してからもSNS等を通じて情報交換が行われている。学習内容が現場でどのように活かされているか、現場を経験して在学期間中に学んでおきたかった事などを聞き取り、カリキュラム等に反映している。	4

平成26年度 自己点検・自己評価

学 科 情報ビジネス科

(4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 就職率の向上が図られているか	
学生数が少ないこともあり学生個々に対応できている。ただし、希望職種の求人が少なく受験機会が少ない学生への指導に改善の余地が見られた。	3
・ 資格取得率の向上が図られているか	
より多くの合格者を排出できる様に担任・強化担当と連携し、検定前には対策授業を実施することで、取得率の向上を図っている。学生の取得意識向上の取り組みについては改善の余地が見られた。	3
・ 退学率の低減が図られているか	
担任だけでなく学科・学校として学生を注視することで退学への歯止めとしている。他者とのコミュニケーションが不得手な学生への対応に改善の余地が見られた。	3
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
企業との接触による情報入手のほか、担任や担当講師との個人的な情報交換も行われている。在校生についてはコンテストへの応募に伴う受賞結果が主な活躍の場となる。	4
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
企業や卒業生から得た情報は関係教員で共有し、カリキュラム構築や就職指導の面で生かされている。	4

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか。	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	④ 3 2 1
・学外活動に対する支援体制は整備されているか。	④ 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか。	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか。	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか。	④ 3 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	④ 3 2 1

①課題

- ・学外活動に対する事前・事後指導の実施など環境整備を進めている。
- ・卒業生の情報収集・情報提供が十分ではない。

②今後の改善方策

- ・課外活動において教育に係る活動への支援体制、活動へ参加する学生への指導教育の検討。
- ・卒業生への情報収集・提供の強化を検討。

③特記事項

- ・就職活動に消極的な学生が増えている。将来への目的が持てず、就職意識が低い。

(5) 学生支援

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	
昨年度計画にあった就職相談室、就職・進路資料室が設置され、企業・進路について情報収集や採用試験対策など積極的な利用が可能。キャリアデザイン授業の実施や外部企業による各種説明会を実施、クラス担任と就職担当とが連携をとり学生との面談を行いながら早期内定に結びつけている。	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	
担任制で学生とのコミュニケーションを図り指導する体制を重要としている。精神的な問題を有する学生への対応は、姉妹校に数名いるカウンセラー(臨床心理士)の協力を得ている。	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	
入学時の特待生制度等の各種制度や在校生向けの優待生制度、授業料延納制度など充実させている。優秀な学生を入学させ技術を身に付けさせ社会に輩出することは重要な使命と考える。また、年間の諸経費についても可能な限り削減を実施している。最近では進級後でも学費を納入できないケースや奨学金を借り入れても学費に充当できないケースもある。	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	
年1回の健康診断を実施。就職活動迄に仕事に支障がないよう健康状態を把握する。精神面を除き現時点では専門医を置く必要はないが必要に応じて姉妹校の教員に依頼することも可能。また、外部に学校担当医を依頼している。	4
・学外活動に対する支援体制は整備されているか	
<p>CANIプロジェクトやエール活動、ゲーム学科による東京ゲームショウへの出展および運営を学生等が中心に実施できる様に各学科が取り組んでいる。</p> <p>最新技術習得のため機材等の充実を図ることや、新たな学生作品の展示・発表機会を増やすなど必要に応じて支援している。</p> <p>今後出てくる新規活動に対し、円滑に活動できるように支援制度を検討している。短期インターンシップが増え、就職活動に直結する場合もあるため、学生の就職活動に不利とならない様、状況を把握する必要がある。</p>	4

<p>・ 学生の生活環境への支援は行われているか</p>	
<p>遠隔地出身者の為の民間宿泊施設を借り受け、姉妹校ともに学生寮として提供している。また、一般の自動販売機以外に、お湯・冷水の自由利用、ワンコインで購入できる無人購買を提供することで、学生のちょっとした食欲と興味と道徳心・自立心・責任感も感じ取れるよう環境整備を行っている。リラクゼーションのための環境も提供している。</p>	4
<p>・ 保護者と適切に連携しているか</p>	
<p>保護者による学生支援が学生の就職、学習に重要であるため、各期の成績表の配布や保護者面談会や新入生の保護者向けの電話連絡等を実施している。また、日常の欠席連絡や問題のありそうな学生保護者には連絡を取り密接に連携をしている。また、過去に問題を抱えている学生が、入学後再び同様なケースとなる事が多いので保護者との連絡が重要である。</p> <p>今年度、保護者アンケートを実施した。集計の後、結果を真摯に受け、必要なフォロー等対応を検討する。</p>	4
<p>・ 卒業生への支援体制はあるか</p>	
<p>同窓会の開催や就職情報の提供は行っている。必要があれば再就職のための情報を提供している。ほか、教務運営に無理がない形での支援を検討。卒業後の就職先企業での評価や実績等を調査し、卒業生等との連携を検討する。</p>	4
<p>・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</p>	
<p>新潟市主催イベントにて、高校生や高校教諭と共同で、資料作成・プレゼンテーション等のイベント運営を行った。また、地域の小学校や公民館からの依頼によるコンピュータやロボットの実験教室等の取組みを継続して実施している</p> <p>高校からの依頼でゲームや情報処理分野の進路指導や就職指導等も行っている。</p>	4

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	④ 3 2 1
・校外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	④ 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか。	④ 3 2 1

①課題

[

②今後の改善方策

[

- ・津波を考慮した災害時の行動計画を加味した防災マニュアルを改定する。

③特記事項

[

(6) 教育環境

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	
<p>パソコンやOA機材は陳腐化が早いので計画的に実施している。学習環境の充実と入学生募集の観点から、学生の研究・学習、興味・関心に合わせて効果的な設備を用意し提供している。今後は学生等が自由に研究できる環境を整えていきたい。</p>	4
・校外実習、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	
<p>就業体験は有意義なので推進していきたい。事前・事後指導やインターンシップ期間で状況確認を行っている。しかし、守秘義務の点で受け入れのない企業も多く、今後も企業開拓が重要である。</p> <p>インターンシップに関しては賠償責任保険やインターンシップ保険に加入している。</p>	4
・防災に対する体制は整備されているか	
<p>施設・設備は耐震基準などに照らし合わせ工事を実施。昨年度の計画により災害時の飲料水の確保、キャンパス棟には発電機が設置された。</p> <p>災害に対し、学生ならびに教職員に啓蒙活動の機会を増やすことは効果的と考えている。</p> <p>津波を想定した防災マニュアルの改定中である。</p>	4

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか。	4 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか。	4 3 2 1

① 課題

学生募集活動は適切に行われているが、課題としては定員を満たす努力は今後も必要と思われる。また、女子の入学率率が資料請求者割合に対し少ないので、増やしていきたい。

② 今後の改善方策

- ・学校案内やホームページなど、高校生が学校研究で目にするものは、必要な情報が正しく・わかりやすく記載されているように配慮する。
- ・学校の教育成果等を広く伝えるため、年に数回の高校訪問を実施して高校の先生に対して、直接説明させていただく機会を設ける。また、進学者者が開催する会場・校内ガイダンスにも積極的に参加して、高校生に直接説明する機会を増やし、当校の特色などを正しく理解していただき、入学率増加につなげる。
- ・保護者向けの案内を作成し、専門学校進学について理解を深める機会を増やす。
- ・女子の希望者が多いデザイン系のコースを平成28年4月より新設することで、女子の入学率増加につなげる。

③ 特記事項

特になし

(7) 学生の受入れ募集

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	
<p>高校生が進路選択に必要な情報元となる学校案内やホームページなどについて、必要な情報を正しく記載し、正しい進路選択ができるように配慮している。</p> <p>また、毎月数回のオープンキャンパスを開催して、各分野の担当教員より入学希望者や保護者に対して授業内容や資格取得、就職指導など、自分に合った進路選択ができるように具体的な情報提供を行っている。</p> <p>しかし、現状としては定員に達していないため、年数回の高校訪問実施や、進学者者が主催する会場・校内ガイダンスへ積極的に参加して、高校生や高校の先生に教育活動を直接説明できる機会を増やすとともに、保護者向けの案内を作成し、専門学校進学について理解を深める機会を増やしたい。</p> <p>また、女子の入学者が少ないため、女子の希望者が多いデザイン系のコースを平成28年4月より新設することで入学者数を増やしたい。</p>	2
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	
<p>資格取得や就職実績、各種コンテスト入賞等の教育成果があった際は、その都度ホームページで情報を開示している。資料請求者には上記のことを記載したリーフレット等を適時送付して伝えている。</p>	4
・ 学納金は妥当なものとなっているか	
<p>他校の学費や学資金情報を勘案し、妥当な金額を決定している。諸経費についても無駄な教材等を排除し、経済負担の軽減を図っている。</p> <p>なお、入学辞退者や退学者、および学費未納者については、規則に従い返還や徴収を行っている。</p>	4

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4 3 2 1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか。	4 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4 3 2 1

① 課題

外部監査が監査法人等によりなされていない。

② 今後の改善方策

27年度より公認会計士・監査法人による外部監査を受けることとした。

③ 特記事項

(8) 財務

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	
校地校舎の購入のための長期借入れも計画どおり返済されており順調に自己資金構成比率が高くなっており今後も順調に推移するものと考えられる。	4
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	
校予算は各部局が年度前に申請し総務経理部が妥当性をチェックし執行しており予算が適正に使われ、教育研究活動が行われている。地校舎の購入のための長期借入れも計画どおり返済されており順調に自己資金構成比率が高くなっており今後も順調に推移するものと考えられる。	4
・ 財務について会計監査が適正におこなわれているか	
学校法人会計として税理士指導のもと実施している。年度末より2か月以内に決算処理を行い理事会までに監査する。税理士に依頼するとともに複数の職員配置による牽制がたもたれている。27年度よりは公認会計士・監査法人に監査を依頼し、外部監査を行くこととしている。	3
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	
法第47条の規定による閲覧対象者は、「当該学校法人の設置する私立学校に在学する者 その他の利害関係人」に対し、求めに応じて公開する。当校の理事会に提出とれるものと同様の形式を公開している。ホームページ上においても公開する。	4

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4 3 2 1
・自己評価結果を公開しているか。	4 3 2 1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

(9) 法令等の遵守

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	
適正に管理している。学則変更などの機会に合わせて基準の確認を行っている。総務において管理し、重点的に理解することが重要と考える。	4
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	
個人情報を正しく管理するために個人情報管理規程を作成。個人情報保護を守りつつ、教育成果の広報活動を行なうため、マニュアルや研修による職員の教育が必要と考える。	3
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	
年に1度実施して点検評価している。文部科学省生涯政策局の専門学校における学校評価ガイドラインを基準に実施。役職者において正しく理解したうえで実施する必要があり、学校全体での評価体制が必要。役職者が実施しており、全教職員での自己点検自己評価はできていない。	3
・ 自己評価結果を公開しているか	
ホームページ上で評価結果を広く公開している。これは、職業実践専門課程運営上の規則でもある。また、事務部門に対しても評価制度を拡大し実施することを検討している。	4

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	④ 3 2 1
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか。	④ 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を、積極的に実施しているか。	④ 3 2 1

① 課題

・社会貢献・地域貢献等実施できるよう可能な範囲で計画中。

② 今後の改善方策

・社会貢献・地域貢献等実施内容の検討している。

③ 特記事項

(10) 社会貢献・地域貢献

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	
<p>情報技術の進歩に沿った教育が不可欠であることから、業界との連携、地域との交流は重要。研究設備を用意し関連企業と連携を進めている。施設・資金・マンパワーを確保し無理のない形で、学生等の研究と合わせ地域貢献できる仕組みを計画している。他、校舎をベンダー試験の試験会場として開放している。</p>	4
・学生ボランティア活動を支援しているか	
<p>社会を広く知ることが重要で、様々な経験ができるよう支援する。CANIプロジェクトが中心となるが、担当教員にて支援する体制づくりを進めている。他、新潟市のパソコン支援を中央公民館で実施している。</p>	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	
<p>新潟市生涯学習センターや地域の小・中学校からの依頼により、ボランティア講座の開設や理科の特別授業や高校での就職指導講座という形で実施している。学生主体の地域向けの学習講座や当校の教員が説明担当で学生がサポートとして実施する講座など種々実施している。学生全員が実施するものではないが、参加学生にとっては代えがたい機会となっている。</p>	4

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・産学連携、地域との連携について

高度情報システム科・情報システム科では、今年度から企業インターンシップを行う科目を設置した。協力企業先でプログラム開発やテスト、レビューなどを行い、現場の技術者の方に評価して頂く機会を設けたことで、より実践的な職業教育を行った。

職業実践専門課程として、次年度新たな教科目を情報工学科で開講する為、検討・交渉を進めている。開講まで協力企業と連携し、内容を詰めていくことになるが、アクティブラーニングベースの授業として、また、学年を跨いで取組むこと、単発の授業としてではなく、テーマや内容は変えつつも約2年間を協力企業並びに学科内の学生が連携して対応できる仕組みとして、構築している。

情報系学科は今年度、活動が多くなっているのが、CANIプロジェクトとして新潟市南商工振興会との協働による鳥屋野潟を中心とした町おこしイベントに関わるプロジェクトや、新潟市 潟開発研究所の新潟市学術研究として、鳥屋野潟の調査に協力している。学生も参加し、研究協力に取り組んでいる。

ゲーム系学科においては新潟市内のゲーム開発会社の協力を得て、ゲーム制作に関わる授業や作品評価を実施している。プロの目線で講義や評価を行ってもらうことで、学生の技術向上はもとより意識向上にもつながっている。

ビジネス系学科では平成22年度より新潟市生涯学習センターとの協働で市民を対象とした各種パソコン教室を実施している。インターネット入門や年賀状作成など実用的な内容で、毎回定員を上回る応募がある人気の講座となっている。

地域貢献の一環として学校周辺の住民を対象にPCサポートを実施している。現在は不定期開催となっているが次年度は定期開催に向けて準備を進める。

・ネットワーク環境の整備について

サーバールームを設け、学内における情報システムのサーバ群を移設した。併せてネットワーク環境も整備・強化した。今後、セキュリティポリシーを再構築し、利用環境の強化も図る予定。

・防災対策について

防災緊急放送に対応する放送設備を整えた。新潟市のハザードマップや防災に関する資料等から学校周辺の防災に対する状況を確認し、新たな防災計画を策定中である。

・成績処理システムについて（学務システム）

パッケージ導入は行わず現システムの改修によりシステムを運用している。将来的な移行に伴い、システムの改修、パッケージの導入について継続して検討する。他、学校が保有する就職情報の有効活用を図る為、就職情報システムの構築を進めたい。

